

書籍商チズウェルによる1680年～1700年のブックリスト研究

高野美千代

Some Aspects of Chiswell's Booklists, 1680-1700

TAKANO Michiyo

Abstract

17th Century booklists, or book advertisements, which we find often at the end of books, would clearly indicate what the publisher wanted to sell at the time of the publication. Richard Chiswell was one of the major London publishers of the latter half of the 17th Century, and he produced more than 100 booklists in all to advertise his stock to his customers. Besides advertising the books, booklists may also provide valuable information about the religious and political stances of the publisher as well as of his customers. This study examines Chiswell's booklists from 1680 to 1700, and traces the changes in their style and contents. The early lists displayed many books covering a broad range of interests, often in groups according to their size, and the lists would be quite long - often extended to several pages. Then, in the later 1680's shorter lists, 1 or 2 pages long, started to appear more often. In the 1690's the lists were mostly short, and they would deal with newly published books or books written by some particular authors. Why did these changes occur at that particular time? Chiswell's lists began to appear at the same time as we start to find his name in the Term Catalogues. So he may have become ready to catalogue his stock around that time, in order to advertise what he had published over the previous 10 years or so to prospective customers. Also, when he changed his style in the later 1680's, it coincided with the time he started to sort out the books his father-in-law, Richard Royston, had left to him. At this time the lists came to deal more exclusively with religious books which Royston had specialized in. Seen as part of the paratexts, the booklists are more than mere trade-lists in that they can reflect the publisher's career and they are also of historical significance.

キーワード：リチャード・チズウェル ブックリスト 書物史

Key words : Richard Chiswell, Booklists, Book History

はじめに

リチャード・チズウェルは17世紀後半のイギリスを代表する書籍商であった。彼が扱った書籍は約1000点にのぼり、同時代の書籍商と比較しても大変多い。また、主題が偏らず、扱った書籍の内容が幅広い領域に及ぶことが顕著な特徴として挙げられる。宗教、歴史、法律等、分野を限らずに様々な書籍をチズウェルほど大量に出版・販売していたのは当時むしろ稀なケースであった。

40年ほどの書籍商としてのキャリアにおいて、チズウェルはどのようにして多種多様しかも大量の書籍をくまなく販売することに成功したのだろうか。多様な書籍を扱うということは当然多様な顧客層を持っていたことになる。したがって、それぞれの客の興味に合った出版物を宣伝するためにチズウェルはなんらかの工夫を必要としたに違いない。¹⁾

17世紀半ば以降のイギリスでは、出版者が新

山梨県立大学 国際政策学部 国際コミュニケーション学科

Department of International Studies and Communications, Faculty of Global Policy Management and Communications, Yamanashi Prefectural University

刊・既刊本のブックリストを作成し、本の巻末等に挿入/印刷するなどして取り扱い書籍を広告する動きが定着し始めていた。このブックリスト作成の発端や経緯については不明な点が未だ残っているが²⁾、チズウェルも例外ではなく、特に1680年代になると本格的にブックリストを用意している。彼のブックリストはESTCやEEBOによれば100超の出版物に添付されている。ただし、リストの数を断定するのは主に2つの理由により困難を極める。まず、データベース上に記録され確認できるもの以外にもリストは実際に存在するし、それとは逆にデータベースから得た情報をもとに調査を行ってもリストを見つけられないケースもある。したがって、現在残っているオリジナルテキストのすべてが完璧な状態ではなく、(何度かの?)製本の途中でリストがなくなってしまうことが考えられる。言い換えれば、同じ版の書籍を手にとっても、リストが残っているものと失われたものが両方見つかる可能性がある。また、リストはテキストと共に(テキストの余白を利用する形で)植字されることもあれば、テキストとは全く別に作成されることもある。そして、独立したリストの場合は複数回にわたって異なる本の中に挿入され使用される場合がある。このような理由で異なるリストの数を正確に把握するのは非常に困難と言える。したがってこの論考では実際に入手することができたリスト約80種を研究対象に限定して、それらを検証することとする。まずは1680年のブックリストを概観した上で、81年~90年、91年~1700年と、10年を区切りとして分析、解釈を行っていきたい。

チズウェルは出版物の宣伝のためブックリストを添付したわけだが、ブックリストの特徴からチズウェル個人を知ることはできないだろうか。彼はイギリス17世紀後半の主要書籍商でありながら伝記的情報に乏しい。新旧DNBから得られる情報も限定されている。例えば厳密にどの程度どの教会に帰依していたのか、どのような政治的スタンスを取っていたのか、その他学術的分野への興味はどうであったのか、明白な事実として伝えられるものはない。このような疑問を解明する鍵

をブックリストから発見できるのではないだろうか。チズウェルが扱った書籍はあまりに幅広い領域に及ぶ。だが彼はその一部を選んでブックリストに掲載していた。つまり特に彼が力を注いだ分野が浮き彫りになるのがブックリストであるとなすことができる。したがってこの論考ではチズウェル個人について物語る部分をブックリストの中に探ることを目的のひとつとし、検討を進めていく。

1. チズウェルのブックリスト：1680年の一例

リチャード・チズウェル(Richard Chiswell, 1640-1711)は1662年に独立し、おそらくロンドンの大火の後、聖ポール寺院周辺の書店街St. Paul's Churchyardに"Rose and Crown"という店を構えた。それ以前の1661年、初めてSimon Patrickの著作である*Mensa mystica*を出版している。その後1660年代は6冊ほどの出版を手がけた。チズウェルが書籍商としての地位を確立していくのは70年代以降であり、18世紀初めまで精力的にビジネスを続けた。ブックリストは1670年代から徐々に書籍巻末を中心に挿入されるようになり、いくつかのタイプのもものが採用された。

チズウェルのブックリストの形態には大まかに分けて3種類ある。本のサイズ(判)毎に分類したもの、著者中心で分けたもの、新刊本に限定したリストである。サイズ(判)別の場合は大判のものから順に、フォリオ、クォート、オクティヴォ、……と続く。著者中心の場合は主にそのテキストの著者の作品を重点的に複数扱うものである。ただし、例えば英国国教会に関連するものなど、別の著者による同じ主題の書籍が併せて紹介されることもある。また、新刊本のリストは比較的短いという特徴を持つ。複数の書籍を紹介するのが常であるが、まれに一冊あるいは2冊に絞った広告もある。テキスト印刷の際に生じる余白の関係によるものが大きいと考えられる。ただし、書籍巻末ブックリストは出版者にとって余白の有効活用であったと同時に、出版者がそのわずかな余白を利用してまで紹介するべき書籍の一覧であ

り、それらの書籍をとくに重視していたという事実を今日証明するものとも言える。

イギリスの出版物を扱う「季刊カタログ」("The Term Catalogue")の始まりは1668年にあたる。新規出版物およびリプリント版を整理して第三者(おもに同業者)に紹介する動きが見られるようになった時代である。チズウェルが作成したブックリストは早期のものとしては1670年代の出版物にも見られ、サイズ別に分類したものが多く見受けられるが、リストそのものの数はまだわずかである。1680年代からは積極的に広告を行う傾向が顕著となる。ここで1680年のブックリストを一例として挙げてみよう。チズウェルが重視した著者の一人である聖職者ギルバート・バーネットによる*Some passages of the life and death of the right honourable John, Earl of Rochester who died the 26th of July, 1680*は出版当時大変人気を得て1680年以降も数回版を重ねた書籍であるが、初版巻末には6ページを割いてサイズ別カタログおよび新刊案内が添付されている。³⁾ このリストで紹介される書籍の数は約140、カバーする領域は宗教、歴史、数学、法律など幅広い。出版年は大半が1670年代後半のものとなっている。はじめの部分、すなわち判毎に紹介される書籍群であるが、数としてはフォリオが2割程度、クォートが3割弱、オクテイヴォが全体の4割強を占める。ドゥオデシモなど小さな判は残りの1割程度になる。サイズの的にも値段的にも手ごろなオクテイヴォが約半数に及ぶのはきわめて自然である。非常に高価なフォリオと廉価な小冊子が同じリストに名を連ねるところが、こういった数ページにわたるサイズ別ブックリストの特徴のひとつである。このことは、不特定多数の読者層が推測されていたことも意味している。一方の新刊案内の部分はサイズによる分類は行われていない。このリストの内容を検討すると、当時のイギリスの出版物全体の傾向に沿ったものとなっていることがわかり、書物がカバーする分野領域からチズウェルの書籍商としての幅の広さが浮き彫りになる。

2. 1681年～1690年のブックリスト⁴⁾

チズウェルのブックリストは1680年以降どのように変化しただろうか。1681年から90年までの10年間に限定し、52冊の書籍の中に現れる51種類のリストを概観し、その特徴を考察する。まず、リストの数の点で明らかになるのは、前半1685年までが12冊程度であるのに対し、後半1686年以降格段に増加して約40冊となっていることである。特に1688年前後急激に増えている。リストの内容としては、前半には1680年の例で見たように判毎に紹介する形態が主であり、ページ数も相応に割いている。1681年出版の3冊の書籍の例を検証しよう。Gilbert Burnetの著作*History of the Reformation*の場合はフォリオ判でサイズ別3ページのリストがあり、Robert Knoxの*Historical Relation*はサイズ別2ページである。Burnetは翌1682年、*History of the Reformation*の要約本を出しているがその中のリストは6ページに及ぶ大変長いものになっている。その一方で後半になると新刊本紹介のみの例が増え、分量も平均して1ないし2ページである。

具体的に検証しよう。Gilbert Burnetの*The History of the Reformation of the Church of England*は2巻本でBurnetの著作の中でもよく知られた作品のひとつである。1681年に出版されたのはその第2巻で(第1巻は1679年出版)、時代としてはエリザベス朝をカバーする英国宗教改革史である。この本の中のリストは同じ形態を取る1680年(Burnetの*Life of Rochester*)のサイズ別リスト例に数点を増補したものとなっている。新刊本案内の中で同著を紹介しているところを見ると、このリストはテキストとは別に作成・挿入された可能性が考えられる。また、一部のみ価格の記載も見られ、統一性のなさがうかがえる。書籍の価格を示すやり方は1680年以前の比較的古いリストに多く見受けられ、徐々に使われなくなっていった。一部記載はその名残であろうか。さらに、*The History of the Reformation*は第1巻が出版された時期がThe Popish Plotに重なり、売れ行きが大変好調であったため、第2巻についても多くの部数を売り上げることが大い

に期待されたはずである。それゆえに書籍商としては手持ちの書籍の販売を促進するために、フォリオ判で3ページにわたる大掛かりなブックリストを作成し、挿入したと考えることができよう。

つぎに Robert Knox の *An Historical Relation of the Island Ceylon in the East-Indies* (Term Catalogue I.461) であるが、この本はやはりフォリオ判で、広告は2ページにわたる。1680年の *Rochester* はオクテイヴォであるためページ数は異なるが内容は同一のものである。*History of the Reformation* よりも後の出版となるが、リスト自体は前のモデルに基づいている。最後にふたたび Burnet の *A Sermon Preached at St. Lawrence-Jury, at the Election of the Lord-Mayor of London*… では、ナンバリングされた13冊の新刊本がリストに収められている。上記2書籍 (*History of the Reformation* および *Historical Relations*) を含む。

翌1682年には Burnet の *History of the Reformation* の要約版 (abridgement) が出されたが、そこにもサイズ別リストが挿入されている。基本的には1681年の第2巻とごく類似したものであるが、判がフォリオよりもふた回り小さなオクテイヴォであるため、巻末6ページに及ぶ長いリストとなっている。William Owtram の *Twenty Sermons* にも同じように6ページのリストがある。宣伝される書籍数は若干 Burnet のものより少ないが、新刊本を含め、広い領域に及ぶ充実した内容となっている。1682年のリストはもう一件あり、William Sherlock の *A Practical Discourse of Religious Assemblies* の第2版である。新刊本のみを扱う1ページのリストになっている。内容は宗教が主であり、他に歴史を含み、約20冊の広告となっている。

つぎに1683年の4種を概観する。最長のものは8ページに及び、一著者に限定した広告もここで初めて現れる。まず再び著者は Gilbert Burnet、表題は *The Letter Writ by the Last Assembly General of the Clergy of France to the Protestants* である。この中の巻末リストは同著作を新刊本に含めていることから、テキストとは別に作

成されたものと推測できる。サイズ別に追ってみると、フォリオ、クォート、オクテイヴォと基本的には前のものと類似している。小さな判であるドゥオデシモで新たな書籍を含め8点を紹介していること、そして新刊本等の案内において書籍タイトルを詳細に記載していることに特徴がある。William Cave の新しい著作2件についてはフルタイトルでつぎのように示されている。

Dr. Cave's Dissertation concerning the Government of the Ancient Church by Bishops, Metropolitans, and Patriarchs: more particularly concerning the ancient Power and Jurisdiction of the Bishops of Rome, and the Encroachments of that upon other Sees, especially Constantinople, Octavo.

— His History of the Lives, Acts, Death, and Writings of the most eminent Fathers of the Church that flourished in the fourth Century: (being a Second Volume) wherein amongst other things is an Account of Arianism, and all other Sects of that Age. With an Introduction containing and Historical account of the state of Paganism under the First Christian Emperours, Folio.

通常は、リストにおける書籍紹介はタイトルや著者名を "Dr. Cave's Lives of the Fathers, the second Vol. Fol." というように、極力省略した形で示す。したがって上のようなケースは例外的である。このことは、チズウェルが William Cave を重要な著者であるとみなし、この2冊を Burnet の読者に対して推薦していた証明となろう。

つぎに同じようなサイズ別リストの例をふたつ挙げるが、ひとつは John Smith による宗教書 *The Doctrine of the Church of England* 巻末の6ページに及ぶリスト、もうひとつは Walter Harris による医学関連書 *Pharmacologia Anti-Empirica* 巻末の2ページのリストである。長さ

は異なるものの、いずれも領域が偏ることはなく重要書籍を網羅的に押さえたものとなっている。一定の読者層を念頭に置いたものではないと言える。

同じ 1683 年にチズウェルが他の書籍商と共同で扱った本で William Salmon による医学書 *Doron Medicum: Or a Supplement to the New London Dispensatory* の巻末には特殊なリストが見受けられる。「同著者の書籍紹介」(An Account of the Authors Books) とことわって、ナンバリングした 9 冊の書物について表題や内容を紹介し、最後に取り扱い業者を記すという形式となっている。これも同著が 4 番目に紹介されている点から、既に作成された医学書関連のリストがこの書籍に挿入されたと考えられることができる。

つづく 1684 年と 1685 年の出版物からはそれぞれひとつずつのリストを確認することができる。まず、1684 年の William Faulkner 著作の *Two Treatises* には 4 ページに及ぶサイズ別リストがある。1685 年の Sir George Mackenzie による *A Defence of the Antiquity of the Royal Line of Scotland* にもやはり 4 ページのリストが添付されている。内容は前年の例とあまり変化がないが、特殊な点としては通常ランダムに紹介される新刊本がこのリストではサイズ別に紹介されていることが挙げられる。

以上のように 1680 年代前半までは比較的長いサイズ別リストが主流であった。この頃初めてチズウェルは本格的に新刊・既刊本広告を出すようになったのだから、自分が取り扱ってきた数多くの書籍を広く宣伝するという目的を達成するための当然の方法であると言うことができよう。あらゆる分野の書籍が同じリストに混在していて、すべての読者が何か自分の興味に合った書籍を見つけることができるような内容となっている。そのリストが徐々に変化を遂げるのがつぎの 5 年間で明らかになる。

1686 年から 1690 年までに出版された書籍巻末リスト 39 種類を概観すると、次のような特徴が浮かび上がる。まずその長さであるが、半数ほどが長さ 1 ページ程度にとどまっている。それらは主に

新刊本のみを扱う。また、それまでには稀であった主題を限定したものが複数現れるようになる。

1686 年のアングリカン関連の書籍 *Of the Sacraments in General* (Gabriel Towerson 著) のリストは 2 ページで、新刊の宗教関連書籍を集中して紹介している。明らかに書籍の内容を意識した構成で、国教会聖職者の著作タイトルが連なる。同じく国教会系書籍 *An Exposition of the Doctrine of the Church of England* には 1 ページのリスト、しかも新刊の 7 冊のみ紹介するものが挿入されている。これらはすべて英国国教会の関連書籍で、大半が著者の名は記されておらず書名が比較的詳細に紹介されている。 *A Discourse Shewing That Protestants are on the Safer Side, notwithstanding the uncharitable Judgment of their Adversaries* 巻末の 13 冊に絞ったリストも同様である。この種の本に関しては著者名よりも書籍タイトルから内容を判断して購入する読者が多かったしるしであろうか。

1687 年には 6 冊の書籍にリストが確認できるが、そのうちの 5 冊にはタイトルページに著者の名前はなく、 *A Treatise*… には 3 ページのリストがあるがここでもまた宗教系の書籍が並ぶ。1688 年の書籍群は宗教を題材とするもので、リストも同様に宗教書を中心に構成されている。

1689 年については著者を限定した特殊な例が複数見られる。Burnet の *A Sermon Preached at the Coronation of William III, and Mary II*… 1689. の巻末の 3 ページのリストを例に挙げよう。このリストの特殊性は第一に共同で出版を行った別の書籍商のリストが混在することである。1 ページ目の上約半分が John Starkey の出版物 3 冊を扱うリストとなっており、残り全てがチズウェルのリストとなっている。チズウェルは新刊本案内として Burnet の著作を 15 冊、続いて Patrick の著作を 8 冊、そのあと William Wake の著作を 8 冊紹介している。すべてが宗教系書物である。残りの余白部分ではその他の領域の書籍を含め 10 冊程度示している。Burnet による別の説教 *A Sermon Preached before the House of Commons* も Burnet の著作 10 点を紹介し、余白でその他

の新刊本を扱う形を取る。宗教・教会・政治が相互に作用する時代であったため、Burnetのような著者の作品は多くの人々の関心を惹いた。彼の説教を読む顧客層は当然彼の教会改革史、宗教論争書を手取る可能性が大きかったことが予測され、よってターゲットを絞る形で広告を作成したことがわかる。Patrickの*Two Sermons* 巻末にもBurnetとPatrick二人の著作を中心としたリストがある。

1686年以降、リストは主に宗教書を扱うものになっている。その理由は何であろうか。ひとつには、義父リチャード・ロイストンの影響が考えられる。ロイストンは17世紀前半から活躍した王党派書籍商であり、1673年～74年には書籍商組合(Stationers' Company)の会長を務めるなど、当時のロンドン出版業界における有力人物であった。国王との関係も深く、*Eikon Basilike*の出版を担ったのをはじめ、チャールズ一世の書物全般の出版権を独占していた。彼は英国国教会の信奉者であり、数多くの宗教書を扱った。そのロイストンが亡くなったのが1686年のことだった。ロイストンは1682年の遺言において彼の版権を孫のエリザベスに譲ることとした。同時に、彼が版権を所有する書籍について、国教会信徒以外による出版を禁じたのであった。チズウェルはエリザベスの一種後見人として義父ロイストンによる出版物の取り扱いを引き継いだ。1680年代後半、チズウェルはロイストンの死によって急激に多くの書籍の取り扱いを始めることになった。また、そもそもロイストンが抱えていた顧客をそのまま引き取る必要もあつたはずである。ロイストンは主に宗教書を出版していた。したがってチズウェルの取り扱い書籍に宗教書が増えていったのは当然であり、また、宗教書の宣伝を中心に行ったのは自然の成り行きである。80年代後半に突然国教会関連のブックリストがつつぎと現れるのは、ロイストンから引き継いだ新たな顧客層へのアピールであつたと考えることができる。

1687年より、*Term Catalogues*に現れるチズウェルの出版物が急激に増加する。Wing's STCによると(重複を除いても)一年間で40冊以上

が出版されている。前年1686年の20冊から2倍以上の伸びである。その中には再版の書籍も多いため、87年以降のチズウェル独自の出版物の内容を検討し、事情を解明することはいささか複雑となる。そもそもロイストンが出版していたものなのか、それともチズウェルの出版物なのかを分別する作業によっては背景を紐解くことが可能となろう。⁵⁾ また、ロイストンの出版物をさばくためにチズウェルが「コンガー」と呼ばれる書籍商グループによる販売方式を採用したのもこの時期にあたる。⁶⁾

3. 1691年～1700年のブックリスト

1680年代のブックリストには明らかな変化が確認できたが、91年から1700年までのリスト28点に関してはどのようなであろうか。1691年から95年までは11種類のブックリストを確認することができるが、やはりいずれも短く、主題も宗教に限定するものが目立っている。また、チズウェルが重視した著者バーネットとパトリックのみを扱うリストが複数あり、かなり明確にターゲットとなる顧客層を絞っての宣伝であつたことが明らかとなる。

1000に及ぶ出版物を世に送り出したロイストンでさえバーネットの作品は早期の9種を扱ったのみである。一方のパトリックについては67種扱っている。ESTCではパトリックの全作品を266点挙げていて、うちチズウェルが扱ったものが48点を数える。つまりパトリックはチズウェルが最初に手がけた著者であるが、実際にはむしろロイストンのほうが作品を多く扱った著者であつた。バーネットの場合はESTCで確認することができる出版物803点のうち121をチズウェルが手がけている。1643年生まれでスコットランド出身のバーネットがロンドンに進出してきたのは1670年代であり、最初にチズウェルがバーネットの本を扱ったのが1677年であるので、チズウェルとバーネットの信頼関係はかなり早い段階で築かれていたことがわかる。また、バーネットはチズウェル没後まで活躍しており、出版物は約半数がチズウェル没後に出版されたという事実を忘れ

てはならない。チズウェルにとってバーネットが
いかに重要な著者であったかをこの数字が物語っ
ている。それでは、バーネットはどのような人物
であったのだろうか。

彼はキリスト教広教派 (latitudinarian) であ
り、ソールズベリの司教、また歴史著述家でもあ
った。1679 年のイギリス教会改革史 *The History
of the Reformation of the Church of England* で
彼は初めて英国国教会の成立を歴史的資料の検証
に基づいて説明した。教会の正当性を証明したこ
の作品は大きな人気を博した。また、彼は説教が
得意で、多数の説教が書籍の形を取って広く紹介
されている。ただし国教会内部での対立に関わ
った人物で、思想的には高教会派と相容れないも
のを持っていた。チズウェルが 1699 年に扱った彼
の著作 *An Exposition of the Thirty-Nine Articles*
はのちに高教会派が中心となる下院の委員会によ
って検閲にかかることになった。

一方のパトリックは 1626 年生まれで、イーリー
の司教であった。『天路歷程』に似たアレゴリー
The Parable of the Pilgrim は広く人気を博し、
1681 年の時点で第 6 版が出されている。ただし
このような物語風な作品は彼の著作のマイナーな
部分に過ぎず、むしろその他ローマカトリック教
会に対しての英国国教会の正当性を主張する論争
書や旧約聖書の解釈を行った著作のシリーズが重
要である。1650 年代から執筆を行っていたので、
時代的にはチズウェルよりもロイストンと近い。
信仰や祈りなど宗教の普遍的な部分を扱う彼の作
品は多くが 19 世紀にも再版されている。

一見して性格の異なる二人の宗教家であるが、
チズウェルは同等に重視していたようであり、リ
ストを作成するときにも二人の著作を同時に紹介
することに躊躇した様子はない。つまりチズウェ
ルの宗教的スタンスをこれによって量ることはで
きない。英国国教会に帰依していたことには違
いであろうが、国教会内部でどのような見解を
持つグループに同調していたのかは明らかになら
ない。

また、サブスクリプション (予約販売) 関連の
情報がブックリストと並列して登場することが目

立ってくるのも 90 年前後のこの頃にあたる。ひ
とつ例を挙げると George Warter Story による
*A True and Impartial History of the Most Mate-
rial Occurrences in the Kingdom of Ireland*…
(1691) であるが、これは歴史書で、巻末のブッ
クリストには歴史および宗教関連の書籍が 14 冊
紹介されている。1 ページのリストの余白部分に
は Henry Whorton による歴史的宗教書 *Anglia
Sacra* のサブスクリプションの宣伝が次のよう
になされている。

This Book will be ready for Publica-
tion by the Fourth of June next: Sub-
scriptions will be taken till the First
of July. Proposals for the same may
be had of Richard Chiswell, and most
other Booksellers in London and the
Country.

書籍の価格は明記していないが、出版の期日と予
約期間および方法を知らせるものである。これも
ブックリスト同様に、購読者層を想定しながら販
売の戦略として用いた手段であったに違いない。
付け加えると、この書籍 *Anglia Sacra* は 1691
年の *Term Catalogues* イースター号で公表され
た価格は予約の場合、1 巻 18 シリング 4 ペンス
～30 シリング、通常の販売価格は 20～40 シ
リングであった。1691 年に出版された後しばらく
の間、このフォルオはブックリストに数回名前が
登場する。チズウェルが力を入れた書籍のうちの
一冊であったと思われる。

それでは、90 年代後半のリストに目を向けよ
う。90 年代のリストは全体として短く新刊本に
限定するものが多いのであるが、90 年代終わ
りにサイズ別に分類され、広い領域の書籍を扱う
リストが 2 度登場する。そのひとつが Langford
による園芸書 *Plain and Full Instructions to Raise
All Sorts of Fruit-trees that Proper in England*…
である。サイズ別で 6 ページに及ぶリストは幅
広い領域の書籍を含む。1680 年のものと比較
すれば当然書籍の入れ替わりは多く、ただし価格の高

いフォリオについては80年のものと同じタイトルが複数目に付く。オクティヴォ判の割合が比較的少なく抑えられているのに対して、ドゥオデシモ判の数は増加している。宗教書以外でブックリストが添付される例が少なくなっていたが、このケースによってその他領域の書籍の場合はやはり幅広い読者層があり、その購買層に適した内容のリストを提示することが効果的であると書籍商側が判断していたことが浮き彫りにされる。

この書は1680年が初版、1696年にも再版され、1699年のこの版は第3版と思われるが、3回とも出版をチズウェルが手がけている。著者についての詳細は不明であるが、作品自体の評判が高かったことは明らかである。3回もの出版を重ねた作品であるため、数千部の売り上げがあったことになる。したがってこの本の巻末に大きなリストを添付することは販売戦略としては手堅いものと言え、これについては英国国教会信徒に限らない読者層が期待できたに違いない。

同じく1699年出版の書籍 *An Essay towards the Recovery of Jewish Measures and Weights* にはサイズ別リストが添付されている。これは聖書に関する宗教系書籍ではあるがユダヤの測量法を扱うもので、王立協会に向けて書かれた学術的価値の高い作品と評価された。DNBによれば、著者の Richard Cumberland が執筆した作品のうち、この書物が最もよく読まれたものとされている。チズウェルが扱った初版は1686年であり、これは第2版となる。上の例と同様の理由でこの書籍巻末にも幅広い領域を扱うブックリストが挿入されたと考えることができる。

このように、90年代の数少ないサイズ別リストからは書籍商の狙いを見て取ることができる。国教会信徒に向けた書籍には読者層をかなり限定した内容、あるいは書籍商自身が重視する著者による作品群のリストが添付されている。80年代と比較し、90年を過ぎてからは出版物の総数は増加しつつある一方で、リストそのものの数が減少していくことにも注目したい。このことは、コンガーによる出版物の安定した取引によって、個別の宣伝行為の必要性が薄れたことに一因がある

のではない。また、書籍巻末にリストに加えサブスクリプション関連の案内が挿入されることもある。サブスクリプションによる書籍の確実な出版・販売方法を採用したこともブックリストを減少させるに至った原因の一つに考えられようか。ブックリストが提供する情報は単にチズウェルが出版していた書籍群だけにおさまらず、彼個人のビジネスの展開、書籍販売の工夫、さらには個人としての思想的スタンスをも示唆するものである。

まとめ

17世紀中期のイギリスで徐々に普及していった書籍巻末ブックリストは、個々の書籍商が特に意欲的に販売しようとした出版物を示している。また、ブックリストからは、書籍商の販売戦略以外にも彼らの政治的・宗教的スタンスを垣間見ることが可能となる。

チズウェルのブックリストの特徴は時代と共に変わっていった。1680年代前半、すなわち彼が広告を使い始めた頃は領域を問わずに書籍の判をベースに分類して出版物を紹介していたことが多い。分量としても多いときには8ページを費やしていた。80年代以前に抱え込んだ在庫全体を販売する意図があったのではないだろうか。それが年月を経るにつれ、徐々にリストそのものが分野によって限定されるようになる。特に80年代後半、英国国教会関連書籍がグループになって扱われることが目立った。これは当然チズウェルが購買層を想定して行ったことであるが、その一方で、チズウェルの義父で17世紀主要書籍商のひとりであったロイストンから譲り受けた膨大な数の宗教書の販売戦略とみなすことができる。ただしチズウェルの宗教的スタンスは必ずしも義父ロイストンと一致するものではなかったかもしれない。確かにチズウェルもアングリカンではあったに違いないが、チズウェルが同等に重視した著者— Simon Patrick そして Gilbert Burnet — 2名が非常に異なる強い個性を持つ国教会司教だったことから、彼はロイストンほどの一貫性を持つ熱心な信徒ではなく、むしろ柔軟な宗教的思想を持っていたことが証明されるのではないだろうか。

ピープスやイーヴリンの日記にもたびたび綴られるように、17 世紀後半のロンドン書籍商は著者や顧客と親密な関係を築いていた。したがって、当時のイギリス出版物の各分野を網羅するような書籍群を扱っていたチズウェルの場合は特に、人脈も交際範囲も幅広いものであったに違いない。それゆえに彼が極端な政治的宗教的思想を持っていなかったことは幸運であったと言えるし、その一方でチズウェル自身、商売を首尾よく成功させるためには思想信条をある程度内面にとどめておく必要を感じていたかもしれない。いずれにせよブックリストに連なるタイトルに明らかな偏りは見受けられない。また、ブックリストから読み取

れる別の事実は、彼が文学にほとんど関心がなかったことである。ギリシャ・ラテン文学の作品名がわずかに登場する程度である。シェイクスピアの全集を他の書籍商と共同で扱っていたこともあるが、それ以外に英文学著者の名前を見受けることはないし、ましてや文学を好んでいた形跡は全く見られない。同時代の主要書籍商ヘリンマンの存在などを考慮すると違いは歴然としてくる。ブックリストが映し出すチズウェル像は中庸なアングリカン信徒であり、著名な書籍商であった義父の商売をも引き継ぎながら、ビジネスの才能を大いに発揮して成功を収めた人物である。

付録

1680 年～1700 年のチズウェルのブックリスト例

	出版	著者	表題	リスト内容	頁	注
1	1680	Burnet	Life, Death of Rochester	sizes～lately～press	8	
2	1681	Burnet	Sermon at Election 1681	lately	1	
3	1681	Burnet	History of Reformation II	sizes	3	
4	1681	Knox	Historical Relation	sizes	2	
5	1682	Burnet	Abridgment of H. of R.	sizes～lately	6	
6	1682	Owtram	Twenty Sermons	sizes～lately	6	
7	1682	Sherlock	Practical Discourse	lately	1	
8	1683	Burnet	Letter to Protestants	sizes～lately	8	
9	1683	Wilkins	Principles and Duties	1 volume	1	余白利用
10	1683	Harris	Pharmacologia anti-e.	sizes	2	
11	1683	Salmon	Doron Medicum	9titles+ contents	4	特殊・共同
12	1683	Smith	Doctrine of C of E	sizes～lately	5	
13	1684	Falkner	Two Treatises	sizes～lately	4	
14	1685	Mackenzie	Defence of Antiquity	sizes	4	
15	1686	Ibn Tufayl	History of Hai Eb'n Y.	6 titles	1	特殊・共同
16	1686	Towerson	Of the Sacraments	lately (25titles)	2	宗教主体
17	1686	Wake	Exposition of D of C of E	lately (7titles)	1	宗教系
18	1687	Sherlock	Principal Controversies	lately	4	宗教系
19	1687	Beaulieu	Discourse	lately (13titles)	1	宗教系
20	1687	Patrick	Pillar & Ground of Truth	lately～press	3	
21	1687	Patrick	Sermon upon St Peter's	17titles	3	宗教系
22	1687	Williams	Difference: C of E, C of R	lately (13titles)	1	19 と同じ
23	1687	Stillingfleet	Vindication of Answer	lately (21titles)	2	宗教系
24	1687	Defour de L.	Historical Treatise	lately (15titles)	1	宗教系
25	1688	Allix	Discourse on Penance	lately (15titles)	1	
26	1688	Allix	Historical Discourse	lately	2	宗教系
27	1688	Burnet	Vindication of Ordination	general～lately	4	宗教主体
28	1688	Gee	Primitive Fathers	lately	2	宗教系
29	1688	Patrick	Full View of Doctrines	lately	1	24 に類似
30	1688	Wake	Discourse of Eucharist	lately (18titles)	1	

	出版	著者	表題	リスト内容	頁	注
31	1688	Wake	Exposition of Doctrine	lately	1	上と同じ
32	1688	Wharton	Pamphlet, Speculum E.	lately~press	3	
33	1688	La Placette	Scepticism of Rome	lately	4	
34	1689	anon.	Resolution of Electors	lately	2	歴史・宗教
35	1689	Brandenb'g	Declar. of Brandenburgh	lately	2	歴史主体
36	1689	Burnet	Exhortation to Peace	lately	2	宗教系
37	1689	Burnet	Sermon at Coronation	lately~press	3	著者主体
38	1689	Burnet	Sermon before H of C	lately	1	著者主体
39	1689	(Clergyman)	Letter by a Clergy-Man	lately	1	P+B,Cave
40	1689	Patrick	Two Sermons	lately	2	Cave+
41	1689	Scotland	Vindicat'n of Proceedings	lately	1	一般
42	1689	Stillingfleet	Disc. unreasonableness	lately	1	
43	1689	Tenison	Sermon against Self-love	lately + apology	2	特殊
44	1689	Burnet	Sermon before H of Peers	lately (8titles)	1	余白
45	1690	Gee	Jesuit's Memorial	lately	2	宗教系
46	1690	anon.	Discourse, Mechanic Ind.	advert. (1title)	1	同著者
47	1690	Burnet	Sermon at Bow-Church	lately	2	宗教系
48	1690	Burnet	Sermon before King & Q	lately (7titles)	1	宗教系
49	1690	Burnet	Sermon before Queen	lately + subscription	2	特殊
50	1690	Cooke	Certain Passages at NP	books printed for	2	
51	1690	Freeman	Sermon at Assizes	advert. (2titles)	1	余白
52	1690	Patrick	Sermon before K & Q	+ subscription ad.	2	特殊
53	1690	Tenison	Sermon, Doing Good	lately	2	
54	1691	Story	True, Impartial History	lately + subscription	1	
55	1692	Allix	Remarks on Ecclesiastic.	lately	1	宗教系
56	1692	Burnet	Discourse of Pastoral C	by B (15titles) +	3	著者中心
57	1692	Fowler	Sermon before Mayor	lately	2	
58	1693	Burnet	Life, Death of Rochester	by B (17titles) +3	2	著者中心
59	1694	Burnet	Sermon before Queen	lately (6titles)	1	宗教系
60	1694	Burnet	Sermon at Funeral	printed for	2	
61	1694	Dawson	Origo Legum	printed for	2	
62	1695	Patrick	Comment. on Genesis	by Patrick (23titles) +	3	著者中心
63	1695	Tillotson	Of Sincerity, Constancy	printed for	3	
64	1695	Tullie	Disc. of Gov. of Thoughts	printed for	2	著者別
65	1696	Geddes	Church His. of Ethiopia	sizes~lately	3	巻頭
66	1696	Patrick	Sermon before Lords	by Patrick (27titles)	1	著者のみ
67	1696	Tillotson	Sixteen Sermons	lately	1	巻頭?
68	1697	Owtram	Twenty Sermons	printed for~lately	2	余白利用
69	1697	Patrick	Comment. on Exodus	by Patrick (27titles)	1	65と同じ
70	1698	Burnet	Sermon before King	lately~in the p~sub.	1	特殊
71	1698	Patrick	Comment. on Genesis	by P (27titles) +	3	著者中心
72	1699	C of E	Judgment of Jewish Ch.	printed for	2	宗教系
73	1699	Langford	Plain, Full Instructions	sizes ~subs. ad.	6	総合的
74	1699	Patrick	Comment. on Numbers	by P (29titles) +lately	3	著者中心
75	1699	Paule	Life of John Whitgift	sold by (5titles)	1	余白利用
76	1699	Tillotson	Several Discourses	printed for~by P+	6	
77	1699	Cumberland	Essay to Recovery of J.M	sizes~lately	4	
78	1700	Burnet	Reflection on Book	printed for~in the p.	1	
79	1700	Patrick	Comm. on Deuteronomy	printed for	1	宗教系
80	1700	Sherlock	Practical Discourse	lately (9titles)	1	

主要参考文献

- Bracken, James K. and Joel Silver, eds. *The British Literary Book Trade, 1475-1700*. Detroit: Gale Research, 1996.
- Feather, John. *A History of British Publishing*. 2nd. ed. London and New York: Routledge, 2006.
- Hodgson, Norma, and Cyprian Blagden. *The Notebook of Thomas Bennet and Henry Clements*. Oxford Bibliographical Society Publications, Vol. VI, 1953. Oxford: Oxford UP, 1956.
- Plomer, H. R. *Dictionaries of the Printers and Booksellers Who Were at Work in England, Scotland and Ireland 1557-1775*. London: Bibliographical Society, 1977.
- Raven, James. *The Business of Books: Booksellers and the English Book Trade*. New Haven and London: Yale UP, 2007.

注

- 1) チズウェルはのちに、他の書籍商と共同で書籍の出版・販売を行う「コンガー (conger)」としてビジネスを展開した。したがってキャリア後半の書籍売買は当然パートナーと協力して行ったものと考えられる。複数の出版者が名を連ねる書籍にチズウェル個人のブックリストが掲載されることは少ない。したがってこの論考においては彼独自の出版物におけるブックリストを扱うことを中心とするものとし、コンガーとしてのチズウェルの販売戦略を検討するのは別の機会を待ちたい。
- 2) ピーター・リンデンバウム教授はブックリストが発生した時期が共和政時代と重なることに着目し、その政治的・宗教的要素を指摘している。つまり書籍商はブックリストで示す書籍によって、王党派/議会派、国教徒/非国教徒などのスタンスを明らかにしており、ゆえに顧客層の差別化が可能となったと考える。Peter Lindenbaum, "Publishers' Booklists and the Construction of Communities in Milton's London", Paper Dedicated at 9th International Milton Symposium, University of London, July 10, 2008.
- 3) 同リストの詳細な分析結果については拙稿「王政復古期の出版物と社会～書籍商リチャード・チズウェルの

ブックリストに関して～」山梨県立大学『国際研究』第1号(2006年)、41～56頁を参照されたい。

- 4) 検討対象としたブックリストは付録として文末に掲載。
- 5) 歴史的資料としては、ロイストンの出版物のリストが Jeremy Taylor と William Cave による *Antiquitates Christianae* (1703年、第9版) の巻末に挿入されており、これを参照することができる。この本はフォリオ判で、リストは全4ページ、ダブルコラムにおさまられている。リストには "A Catalogue of Mr. Richard Royston's Copies as they Stand Entred in the Register of the Company of Stationers. Now belonging to the Children of Mr. Luke Meredith, deceased." というタイトルがついている。書籍商組合に登録されたロイストンが版權を所有した書籍リストであり、1703年当時は孫娘エリザベスの夫である書籍商メレディスが版權を有しているという意味になる。ただしメレディスは1700年に没しているため、実際にこの書籍はおそらくその息子のジョン (John Meredith) が出版し、9人のブックセラーが販売を扱っている。ただし、ロイストンの遺言によれば、出版物はすべて孫娘エリザベスに委ねられていた。遺言が作成された当時エリザベスはまだ十代半ばであったため、義父のチズウェルが遺言の執行人としてエリザベスの代理を務めていた。その後エリザベスはロイストンの徒弟でもあったメレディスと結婚したため、書籍の出版はメレディスに引き継がれた。そして彼の没後はおそらくその息子ジョンが商売を引き継いだはずだ。残念ながらDNBにも彼らの詳細は書かれていないため、これ以上の追跡は現時点では不可能であるが、今後資料を収集して状況を解明したい。
- 6) John Feather による *A Dictionary of Book History* (New York: Oxford UP, 1986), p.76 において、コンガーについては次のように説明される。
The conger was an informal group of members of the trade who worked together for their common commercial benefit. Congers dealt with three matters - wholesaling, copyrights and printing - although the activities were not always mutually exclusive in any particular conger. The congers evolved in 1680s as a means of protecting copyrights against piracy when the temporary lapse of the Printing Act, from 1679 to 1685, left the trade without copyright owner produced an edition, and then sold the copies in bulk at a generous trade price to other leading members of the trade. They then sold them at a profit to the retail booksellers both in London and the country. Hence, if the title were pirated, all the members of the conger would be affected, not just the copyright owner.

Since the members of the conger substantially controlled the trade' s market outlets, it became almost impossible to sell a pirated edition through conventional book trade channels. From this self-protection there emerged a regular system of wholesaling along these lines, within a group of perhaps 15 or 20 leading London bookseller/publishers, and it continued to function until c.1720.